



# 自動車社会のさらなる発展に向けた IT・エレクトロニクスの役割

インダストリ・システム部

## ■自動運転の実現に向けて

2013年の CEATEC JAPAN では、ITS 世界会議、東京モーターショーとの3イベント連携シンポジウムを「高度運転支援技術（自動運転）」をテーマに、ITS 事業委員会が企画し、下記のプログラムを実施し、600名を超える聴講者に、自動運転の実現に向けたそれぞれの立場からの講演や課題解決を討論しました。

### CEATEC JAPAN 2013/ITS 世界会議 / 東京モーターショー2013 3イベント連携シンポジウム

タイトル：「高度運転支援システムの将来を支える IT & エレクトロニクス技術」

日時：2013年10月2日(水) 14:00 ~ 17:40

場所：幕張メッセ 国際会議場2階 コンベンションホール A

タイトル	登壇者
モビリティサービスの新しいパラダイム	経済産業省 製造産業局 自動車課長 前田 泰宏 氏
“考えるクルマ” と交通社会の未来	日産自動車(株) 副社長 山下 光彦 氏 ジャーナリスト 木村 太郎 氏 Mr. Anthony Levandowski, Product Manager (of Google's Autonomous Car)
次代のクルマ技術を担う「昆虫力」～昆虫の感覚・脳・行動のしくみ～	東京大学 生命知能システム分野・教授 神崎 亮平 氏
パネルディスカッション 「より安全で安心な自動車社会を実現するために」	【パネリスト】 日産自動車(株) 執行役員 中畔 邦雄 氏 東京大学 生命知能システム分野・教授 神崎 亮平 氏 日本電気(株) 情報・メディアプロセッシング研究所 所長 山田 昭雄 氏 経済産業省 製造産業局 自動車課 電池・次世代技術・ITS 推進室長 吉田 健一郎 氏 【モデレータ】 日経 BP 社 日経 Automotive Technology 編集長 鶴原 吉郎 氏

はじめに登壇いただいた、経済産業省・前田自動車課長は、自動車の発展、自動車社会のさらなる利便性を向上させるには、自動車と IT・エレクトロニクス技術との融合が必要不可欠であり、センシングやデータ処理など、最先端技術のさらなる向上を、と、産業界に対する期待を込めての熱弁でした。

続いて、日産自動車(株) 山下副社長と、ジャーナリスト・木村太郎氏に加え、テレビ会議でアメリカ・Google からアンソニー・レバンドスキー氏が参加し、3者対談形式での講演。

木村太郎氏が MC を務め、日産自動車の自動運転技術開発状況や今後注目される IT・エレクトロニクス技術、日産自動車考える自動車社会の将来像やビジョンについてなどが話し合われました。

また、Google 社・アンソニー氏からは、アメリカでは自動運転に関する公道実験が進められていることから、アメリカでの公道実験の状況や Google 社で進められている開発状況や今後の展開などが話されました。

最後に、木村太郎氏は、「自動運転が現実のものとなり、社会で受け入れられるためには、技術的な側面だけでなく、法整備や規制緩和が必要で、官民が一体となって実現に向けて歩んでほしい」とコメントしました。

自動運転のみならず、安全運転支援にも多くのセンサが利用されており、今後の自動車の発展において、センシング技術の発展は欠かせないものとなります。

東京大学・神崎教授は、昆虫の触覚や脳と行動のしくみをセンサ技術に応用する研究をされており、本講演では、昆虫の持つセンサ（触覚、聴覚など）のしくみ、脳への伝達のしくみ、機器への応用の可能性などについて話されました。

事例として、カイコガの脳を挙げ、カイコガの行動をシミュレーションするためには、スーパーコンピュータを利用しなければならないほど、膨大なデータと高い処理能力が必要であることが示されました。

パネルディスカッションは、経済産業省、日産自動車、神崎教授に加え、クラウド活用の観点から、日本電気も登壇し、「より安全で安心な自動車社会を実現するために」をテーマに議論されました。

内容は、自動運転の実用化に向けた法律上の問題点やその解決策、実証実験を行うにあたっての問題点、自動運転に対する責任問題の所在、センサの活用にどういった要素が必要か、データ活用におけるデータ処理技術など、様々な観点から議論を深めていきました。

会場からは、事前に質問をいただき、自動運転実現に必要な技術や今後、どういった技術が必要か、2020年東京オリンピックで日本が発信すべきものは？ といった質問に各登壇者が答えました。



会場は多くの立ち見が出る盛況ぶり。将来の自動車社会に対する関心の高さがうかがえた。



パネルディスカッションでは、法整備からデータ活用まで、さまざまな観点で議論された。

このシンポジウムでの自動運転に関する技術発展への期待や法整備等の課題解決に向けた議論は、多くの聴講者に刺激を与え、今後の技術開発に活かされるものになったことでしょう。

■シンポジウムでの討論を具体化していくために

このシンポジウムでの議論された内容を踏まえ、ITS 事業委員会では、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定に伴い、開催時に、日本の自動車社会がこういったものを国際社会に発信していくのかを考えるセミナーを開催します。

登壇者それぞれが考える交通社会の未来と、2020年に日本が何をを見せていくのかを討論します。

テ ー マ：2020年に向けた IT による人間と車の融合

～東京オリンピック・パラリンピックに向けた交通社会を考える～

日 時：2014年2月24日(月) 13：00～16：25

場 所：全電通ホール（最寄駅：各線御茶ノ水駅／新御茶ノ水駅／小川町駅）  
東京都千代田区神田駿河台3-6

聴 講 料：会員 5,000円 非会員 10,000円 学生 無料

申込方法：JEITA ホームページより、セミナー案内からお申し込みください。

時間	内容
13：00～13：10	開会の挨拶
13：10～13：40	テーマ：ビッグデータによって次世代交通システムはどう変わるか 登壇者：日本電気(株) ビッグデータ戦略室 技術主幹 妹尾 義樹 氏
13：40～14：10	テーマ：“考えるクルマ” と交通社会の未来 登壇者：日産自動車(株) 企画・先行技術開発本部 技術企画部 エキスパートリーダー 二見 徹 氏
14：10～14：15	休憩
14：15～14：45	テーマ：近未来交通の姿とハード・ソフト・人 登壇者：東京大学 先端科学技術研究センター 工学系研究科航空宇宙工学専攻（兼任）教授 西成 活裕 氏
14：45～15：15	テーマ：人間中心の交通社会へ ― 今後の ITS への期待 ― 登壇者：芝浦工業大学 工学部 共通学群（心身医学・ヒューマンファクター） 教授 医学博士 春日 伸予 氏
15：15～15：25	休憩
15：25～16：20	パネルディスカッション 「次世代の自動車社会について考える ～2020年東京オリンピックに向けた国際化と交通社会の課題～」 パネラー：上記登壇者 モデレーター：日経 BP 社 電子・機械局編集委員 日経 BP 未来研究所上席研究員 鶴原 吉郎 氏
16：20～16：25	閉会の挨拶

ITS 事業委員会は、ITS 分野のビジネス拡大と普及促進のため、自動車業界のみならず、さまざまな業界と連携し、新たな技術・サービスの発展に資する活動を、今後も展開してまいります。

〈ITS 事業委員会参加企業、随時募集中！〉

ITS 事業委員会では、上記活動に参加いただける会員を募集しています。参加方法、会費等の詳細は、下記までお問い合わせください。

【ITS 事業委員会に関するお問い合わせ先】

インダストリ・システム部 産業・公共システムグループ 担当：近藤 寛

TEL：03-5218-1057 E-mail：hiroshi.kondo@jeita.or.jp